



皆様の精神保健医療を誠実に、最新の医療を提供します。



各種研修会・研究会も盛んに行っております。

五稜会病院概要

標榜科名:

神経科・精神科・心療内科・消化器科

病床数 193床

急性期病棟 38床

ストレスケア・思春期病棟 48床

療養病棟A 54床

療養病棟B 53床

従業員数 150名

医師数 常勤 8名 非常勤 8名

薬剤師 2名

臨床心理士 4名

作業療法士 4名 音楽療法士 1名

精神保健福祉士 6名

五稜会病院沿革

開設 昭和47年

医療法人開設 平成2年

発行: 〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2 - 3

医療法人: 五稜会病院

責任者: 田中稜一

電話: 011-771-5660

<http://www.goryokai.com>

こころと身体 そてりあ GMC

札幌市北区篠路

五稜会病院

ストレスケア・思春期病棟 オープン



五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

が伝わるような医療を行う。

- 1 患者様の病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者様との信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

五稜会病院は札幌市北区篠路地区を中心とした地域の精神保健福祉医療を担う民間病院です。当院は「こころと身体の病」を癒すための病院で、神経科・精神科・心療内科を専門としています。

気分がすぐれない、元気が出ない、食欲がない、よく眠れない、人間関係に疲れたなどでお困りの方はいませんか。当院での治療対象となる病気はうつ状態、不安障害、摂食障害、統合失調症、アルコール依存症などです。

当院に勤務する職員は患者様の人権を尊重し、患者様とその御家族の精神保健の安定のために誠心誠意の努力をすることをモットーとしています。御気軽にご相談下さいますようお願い致します。

goryokai

ストレスケア病棟Open

ストレスが脳に与えるダメージ、そして心の病の回復に「優しい空間と治療スタッフが如何に大切か」脳の科学の進歩で明らかになってきました。
われわれの新しい病院造りを一緒に考えて頂きたいと思います。

当院のストレスケア病棟の概要

病床数：48床（思春期病床 16床）

従来の精神科病院の雰囲気を一掃しました。新しい感覚の病棟です。内装・家具類などの調度品はホテル感覚のものを用意しています。現代の疲れた精神・身体を癒す空間作りをしています。個室を多く用意しておりますので、プライバシーには十分に配慮しています。

対象となる病気、疾患

思春期精神疾患、摂食障害、ストレス関連疾患、パニック障害、強迫性障害、うつ状態、アルコール依存症などです。

但し、思春期の行為障害、性同一性障害は当院での治療対象とはしておりません。病棟の規則を遵守できる方に入院していただいております。

治療プログラムに則り、3ヶ月以内での入院治療を行います。

治療内容

薬物療法ならびに精神療法はもちろんですが、作業療法、心理療法、集団療法等を行い、心身の癒しに努めています。

心理療法の中では特に認知行動療法を取り入れています。わが国の認知行動療法では高名な心理療法士とも連携して、パニック障害、強迫性障害の治療を行っていく予定です。

また、入院中に各種心理テストも行い、心理状態の把握に努めています。検査結果については視覚的にわかるように十分な説明をするように心掛けています。



癒しの空間を求めて



ストレスケア病棟デイルーム
明るい空間です。



ストレスケア病棟ナースステーション
オープンカウンターの気軽に声がかけられます。



ストレスケア病棟食堂
癒しの空間の演出をしています。



ストレスケア病棟個室。快適な環境を提供しています。

現代のストレス社会をのりきるために

[こころと身体]の健康のための 療養上のヒント

- 1.生活のリズムは規則的に保ちましょう。「早寝早起き三文の得」です。
- 2.睡眠不足は心身ともに不安定になりやすいので、十分注意しましょう。
夜間は日中の頭の疲れをとるために「寝るのが一番」です。
- 3.バランスの良い食事とともに排泄も大事です。便秘は禁物です。
- 4.楽しいことを考えましょう。
ストレスをうまく発散するように気分転換・体を動かすことが大事です。
- 5.病気を治すことも重要ですが、如何に気楽に生活出来るかを考えましょう。
病気とうまく付きあうことが大事です。あせらずゆっくりと。
- 6.治療効果を上げるのには御家族の協力、病気の理解が必要です。
- 7.何か人のために役立つことをしましょう。
恵みをする事は御自身の健康にも繋がります。

クリスマスの師走に思う

重たい雪を投げてヘトヘトになり、午睡をしたあと、ちょっとけだるい心地よさを味わいながら、今、原稿を書き始めています(12月7日)。第1回目なので、病棟の紹介をしようかと考えておりましたが、五稜会病院のホームページを見ていただければ、写真入りで大体のことは紹介されているので、ここでは、徒然なるままに書きます。

銀世界のクリスマスを迎えるのが、なんとなく、札幌にはお似合いかなと思います。今日の雪はすぐに溶けそうなので、クリスマスの頃はどうなっているのかわかりません。クリスマスにはイエス・キリストの誕生を祝いますが、今年は、この新病棟の誕生(10月14日)と重なるので、病棟担当医の僕にとり、大切な意味ある12月になりそうな気がします。

入院されている方々は、治ることを願っておられます。当たり前のことと思われるでしょうが、実は、決して当たり前のことではありません。折れた足の骨がくっつくとか、胃潰瘍になってポッカー開いた穴が塞がる、というような回復の現象であれば、わかりやすいのですが、病んだココロが治るということはどういうことなのか？

僕が医学生の際には、精神科では治るとは言わない、という了解が暗黙裡にありました。僕も尊敬する先生から「寛解」と言うように教えられました。当院の田中院長も(少し昔の方なので)治るとはおっしゃらないで、レミッションと表現されます。レミッションとは英語の **remission** のことで、日本語訳が「寛解」です。言葉はどうしてもよいのですが、問題は意味です。僕はしばらくの間(20年近く)、「寛解」の意味がわかりませんでした。ところが、ある時わかったのです。それは、「和解」ということでした。詳しい説明はできませんが、クリスマスに生まれたイエス・キリストが僕たちの罪を担って十字架上で死んだ、ということを知る、すると、僕たちは父なる神と和解することになる・・・というような文脈の中から生まれた医学用語が **remission** です。白血病が治る場合も寛解と表現します(20年前は確か、そうでした)。実は、僕の母親が今年の夏に急性骨髄性白血病で、あと3ヵ月の命ですと診断されて入院しました。しかし、12月の今も元気で生きています。僕の母は寛解したのです・・・というような使い方をします(母の白血病の話は実話です)。

聖書で病が直るといふ箇所の「直る」の原文(ギリシャ語)をみると、「救われる」という意味が多いようです。精神科医療で僕が目している **Soteria** という働きがあります(薬を使わずに精神病を治療し、かなり良い成績をおさめています)、**Soteria** も聖書の「直る」と同じギリシャ語の **swthriva**。(救い)に由来しています。つまり、ココロが治るのは「和解」であり、それは神の救いと密にリンクしているのです。神の救いのことは医者には論じることができませんが、確かにココロの病が治ることは、家族との和解、友人・知人との和解、そして、自分自身との和解と同じ意味であることが、実に多いのです。

今年の12月は、クリスマスの原義に戻って、自分の周囲の方々との和解、自分の中にある受け入れられない自分との和解を願って過ごしてみたいと願われます。